

# 平成27年度 国内外における遺伝子診療の実態調査

---

研究や診療における遺伝情報に関する市民意識調査 報告書

2016年3月31日

 株式会社三菱総合研究所  
人間・生活研究本部

# 1. 調査の目的・実施方法

## (1) 調査の目的

- 本調査は、研究や診療における遺伝情報に関する市民意識を調査することにより、今後どのような啓発活動が必要かを検討する基礎資料を収集することを目的として実施する。

## (2) 調査の方法

- 株式会社三菱総合研究所が運営する「生活者市場予測システム」が保有する**20歳から69歳までの生活者パネル**（健常人）を利用し、WEBによるアンケート調査を実施する（回答者には回答ポイントが発生するインセンティブがある）。

## (3) 調査対象

- **20歳から69歳までの生活者パネルより3,000名。年齢階層（10歳）、男女別に同数まで確保する。無記名とし個人情報**は収集しない。

## (4) 調査期間

- 2016年3月16日～2016年3月22日

## (5) 調査結果の見方及び留意事項

- 表全体の検定は、カイ二乗検定（独立性の検定）で行う。表側変数と表頭変数に有意な関係があるか検定する。
- 本調査は、一般市民に対するゲノム研究やゲノム医療に関する用語等に関する印象度を把握することに焦点を当てたことから、各設問は最低限の説明文章にするよう配慮した。

例	検定結果
50%	有意に高い（間違え確率5%以下）
<b>50%</b>	有意に高い（間違え確率1%以下）
50%	有意に低い（間違え確率5%以下）
<b>50%</b>	有意に低い（間違え確率1%以下）

## 2. 調査結果

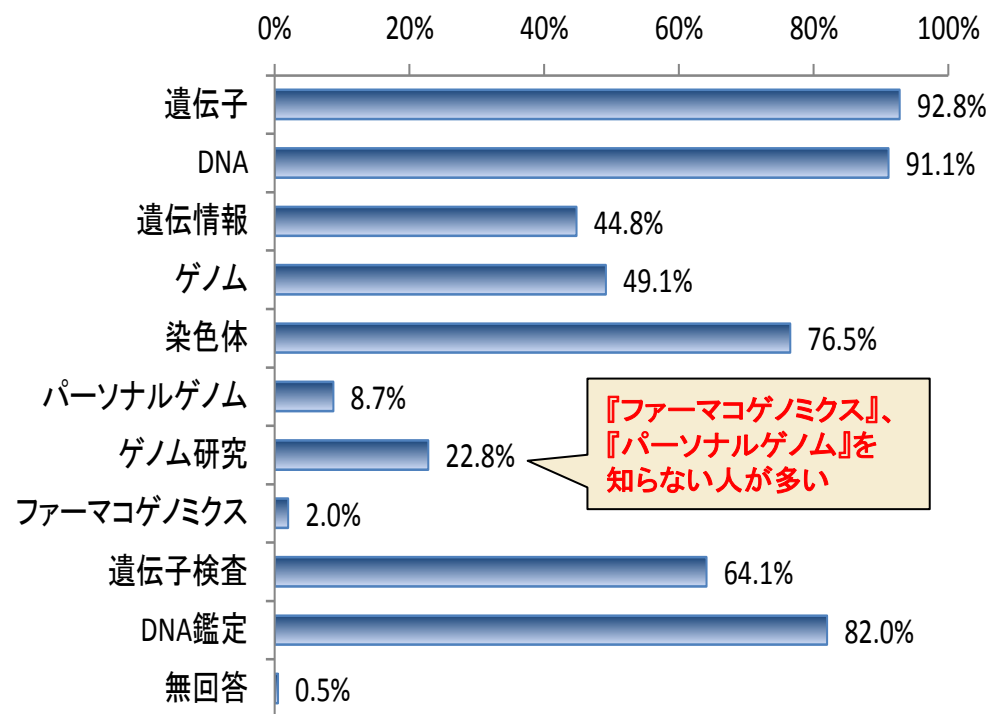
Q1. あなたは、次のような言葉について知っていますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

言葉別認知度の割合をみると、「遺伝子」が最も多く92.8%、次いで、「DNA」が91.1%、「DNA鑑定」が82.0%であり、これらの言葉は8割以上の人を知っているという結果であった。

また、「**パーソナルゲノム**」(8.7%)と「**ファーマコゲノミクス**」(2.0%)は、**9割以上の人**が知らないという結果であった。

(単位: 人)

	人数	割合
遺伝子	2,783	92.8%
DNA	2,733	91.1%
遺伝情報	1,344	44.8%
ゲノム	1,474	49.1%
染色体	2,295	76.5%
パーソナルゲノム	261	8.7%
ゲノム研究	683	22.8%
ファーマコゲノミクス	60	2.0%
遺伝子検査	1,922	64.1%
DNA鑑定	2,459	82.0%
無回答	14	0.5%
N	3,000	-



## 2. 調査結果

Q1. あなたは、次のような言葉について知っていますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

◆他に比べて割合が高い(有意に高い)性別および年代

「遺伝子」: 女性60代、男性60代  
「DNA」: 男性60代  
「遺伝情報」: 男性60代、男性50代、男性40代  
「ゲノム」: 男性60代、男性40代、男性50代  
「染色体」: 女性50代、女性60代、男性60代  
「パーソナルゲノム」: 男性60代  
「ゲノム研究」: 男性50代、男性60代  
「遺伝子検査」: 女性60代、女性50代、男性60代  
「DNA鑑定」: 女性50代、女性60代

◆他に比べて割合が低い(有意に低い)性別および年代

「遺伝子」: 女性20代、男性20代  
「DNA」: 女性20代、男性20代  
「遺伝情報」: 女性30代、女性20代  
「ゲノム」: 女性40代、女性30代、女性20代  
「染色体」: 男性30代、男性20代  
「パーソナルゲノム」: 女性20代  
「ゲノム研究」: 女性20代、女性30代、女性40代  
「ファーマコゲノミクス」: 女性40代、女性60代  
「遺伝子検査」: 男性20代、女性20代、男性30代  
「DNA鑑定」: 男性20代

全般に、すべての言葉において、**男女ともに50代以上は『知っている』傾向にあるが、30代以下は『知らない』傾向にある。**

## 2. 調査結果

Q1. あなたは、次のような言葉について知っていますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

(単位: %)

		N (人数)	遺伝子	DNA	遺伝情報	ゲノム	染色体	パーソナル ゲノム	ゲノム研 究	ファーマコ ゲノミクス	遺伝子検 査	DNA鑑定
Total		3,000	92.8	91.1	44.8	49.1	76.5	8.7	22.8	2.0	64.1	82.0
男性	Total	1,500	92.1	90.8	50.7	56.5	74.7	10.2	27.7	2.7	60.5	79.2
	20-29歳	300	85.7	84.3	41.3	49.3	62.7	6.7	25.0	2.7	48.3	71.7
	30-39歳	300	90.7	88.0	43.7	53.0	69.3	9.0	23.7	2.3	55.7	76.7
	40-49歳	300	92.0	92.0	54.7	60.0	77.0	10.7	25.3	3.3	58.0	78.7
	50-59歳	300	95.3	93.3	55.7	57.7	81.0	10.3	30.3	3.0	66.7	84.3
	60-69歳	300	97.0	96.3	58.0	62.7	83.3	14.3	34.0	2.3	74.0	84.7
女性	Total	1,500	93.4	91.4	38.9	41.7	78.3	7.2	17.9	1.3	67.6	84.7
	20-29歳	300	88.7	86.7	30.0	37.0	73.7	5.7	14.7	2.3	55.3	80.7
	30-39歳	300	91.0	90.7	36.7	39.0	71.3	6.3	14.7	2.3	59.3	80.0
	40-49歳	300	94.0	91.3	38.0	40.3	76.3	7.0	16.0	0.3	67.7	80.7
	50-59歳	300	96.0	93.3	45.0	46.0	85.3	8.7	20.3	1.0	76.3	91.7
	60-69歳	300	97.3	95.0	45.0	46.3	85.0	8.3	23.7	0.3	79.3	90.7

男女ともに、50代以上が有意に知っている。  
特に女性の20代、30代は知らない傾向が  
見られる。

## 2. 調査結果

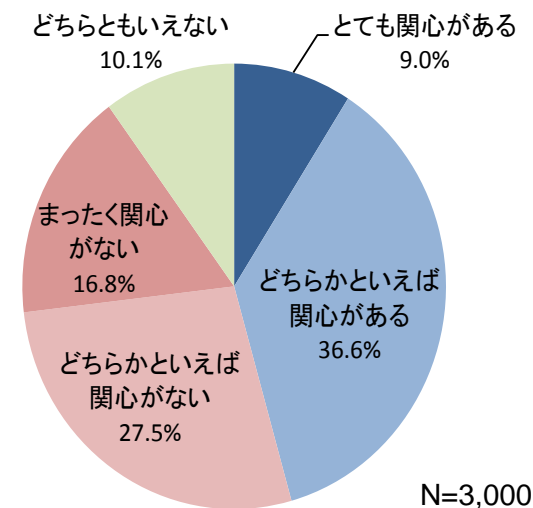
Q2. このような遺伝情報(遺伝的な体質)に関する研究や診療に関心がありますか。当てはまるものに○をつけてください。

全体で、関心度の割合をみると、「どちらかといえば関心がある」が最も多く36.6%、次いで、「どちらかといえば関心がない」が27.5%、「まったく関心がない」が16.8%であった。

『関心がある』人(「とても関心がある」および「どちらかといえば関心がある」)の割合は45.6%、『関心のない』人(「どちらかといえば関心がない」および「まったく関心がない」)の割合は44.3%ということから、『関心がある』人と『関心のない』人の割合は、ほぼ同じであるという結果であった。

(単位:人)

	人数	割合
とても関心がある	271	9.0%
どちらかといえば関心がある	1,098	36.6%
どちらかといえば関心がない	825	27.5%
まったく関心がない	504	16.8%
どちらともいえない	302	10.1%
N	3,000	100.0%



## 2. 調査結果

Q2. このような遺伝情報(遺伝的な体質)に関する研究や診療に関心がありますか。当てはまるものに○をつけてください。

◆他に比べて割合が高い(有意に高い)性別および年代  
 「どちらかといえば関心がある」: 男性60代、女性60代  
 「どちらかといえば関心がない」: 男性50代  
 「まったく関心がない」: 男性20代、女性20代  
 「どちらともいえない」: 男性30代

◆他に比べて割合が低い(有意に低い)性別および年代  
 「どちらかといえば関心がある」: 男性20代  
 「どちらかといえば関心がない」: 男性30代  
 「まったく関心がない」: 男性60代、女性60代  
 「どちらともいえない」: 男性60代

全般に、男女ともに20代、30代は『関心がない』人の割合が高い傾向にある。

(単位: %)

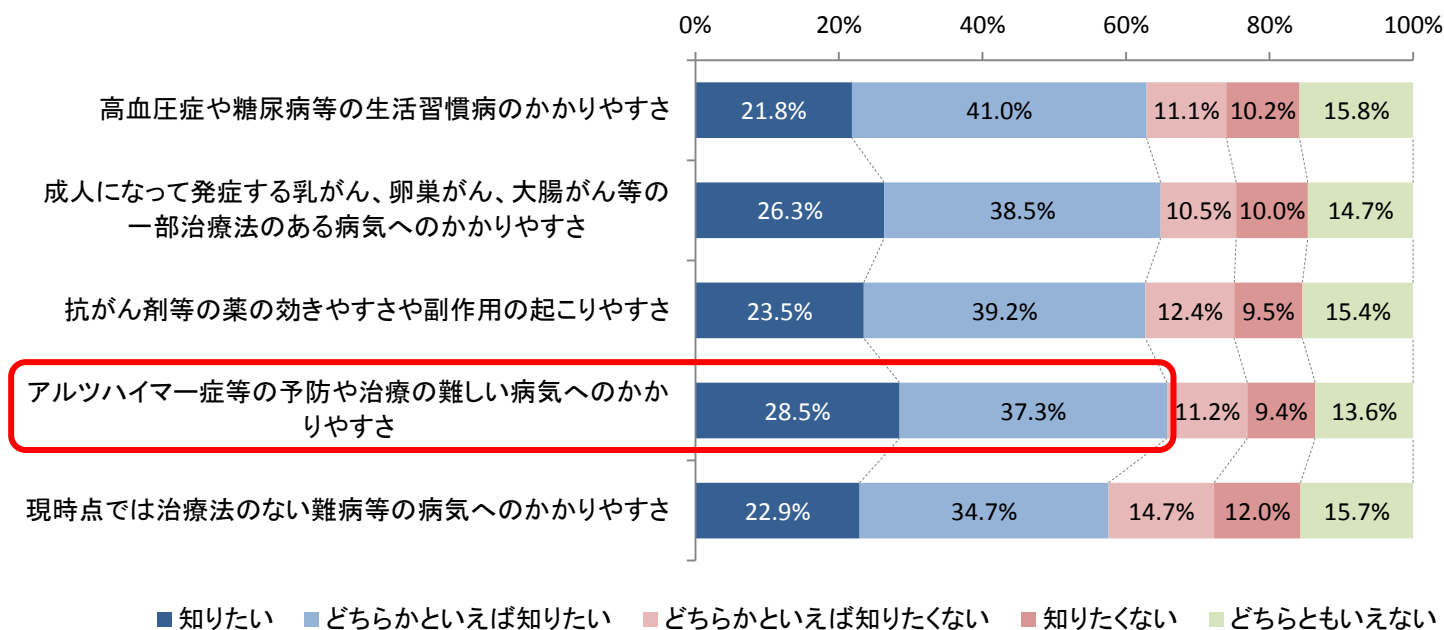
		N (人数)	とても関心がある	どちらかといえば関心がある	どちらかといえば関心がない	まったく関心がない	どちらともいえない
Total		3,000	9.0	36.6	27.5	16.8	10.1
男性	Total	1,500	8.7	35.0	27.8	17.7	10.9
	20-29歳	300	10.0	27.7	23.3	25.0	14.0
	30-39歳	300	10.3	31.0	21.0	21.7	16.0
	40-49歳	300	8.0	36.3	27.7	17.0	11.0
	50-59歳	300	7.3	34.7	35.0	14.3	8.7
	60-69歳	300	7.7	45.3	32.0	10.3	4.7
女性	Total	1,500	9.4	38.2	27.2	15.9	9.3
	20-29歳	300	10.0	32.7	22.7	22.7	12.0
	30-39歳	300	11.3	37.7	22.0	19.0	10.0
	40-49歳	300	10.7	37.7	29.3	12.7	9.7
	50-59歳	300	9.0	39.0	29.7	14.3	8.0
	60-69歳	300	6.0	44.0	32.3	11.0	6.7

## 2. 調査結果

Q3. ご自身の遺伝情報を知りたいと思いますか。それぞれ一つ選択してください。

全体で、割合をみると、『知りたい』人(「知りたい」および「どちらかといえば知りたい」)の割合が最も多いのは、『アルツハイマー症等の予防や治療の難しい病気へのかかりやすさ』(65.7%)で、次いで「成人になって発症する乳がん、卵巣がん、大腸がん等の一部治療法のある病気へのかかりやすさ」(64.8%)であった。

「現時点では治療法のない難病等の病気へのかかりやすさ」は、『知りたい』人の割合が最も低く(57.6%)、『知りたくない』人(「どちらかといえば知りたくない」および「知りたくない」)の割合が最も高い(26.7%)という結果であった。





## 2. 調査結果

Q3. ご自身の遺伝情報を知りたいと思いますか。それぞれ一つ選択してください。

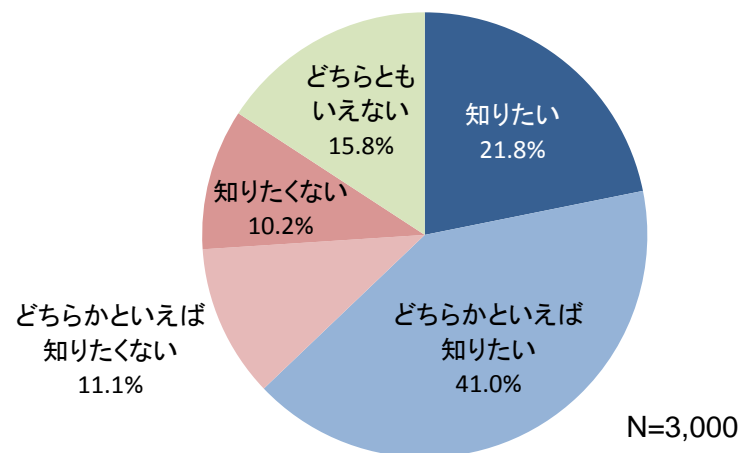
### ① 高血圧症や糖尿病等の生活習慣病のかかりやすさ

全体で、割合をみると、「どちらかといえば知りたい」が最も多く41.0%、次いで「知りたい」が21.8%、「どちらでもない」が15.8%であった。

『知りたい』人（「知りたい」および「どちらかといえば知りたい」）の割合は62.8%、『知りたくない』人（「どちらかといえば知りたくない」および「知りたくない」）の割合は21.3%であり、『知りたい』人の割合が『知りたくない』人の割合よりかなり高いという結果であった。

(単位: 人)

	人数	割合
知りたい	655	21.8%
どちらかといえば知りたい	1,231	41.0%
どちらかといえば知りたくない	333	11.1%
知りたくない	307	10.2%
どちらともいえない	474	15.8%
N	3,000	100.0%



## 2. 調査結果

Q3. ご自身の遺伝情報を知りたいと思いますか。それぞれ一つ選択してください。

### ①高血圧症や糖尿病等の生活習慣病のかかりやすさ

#### ◆他に比べて割合が高い(有意に高い)性別および年代

「知りたい」: 男性40代、女性30代、女性40代

「どちらかといえば知りたい」: 女性40代

「どちらかといえば知りたくない」: 女性60代

「知りたくない」: 男性60代

「どちらともいえない」: 女性20代

#### ◆他に比べて割合が低い(有意に低い)性別および年代

「知りたい」: 男性20代、女性60代

「どちらかといえば知りたい」: 男性40代

「どちらかといえば知りたくない」: 女性30代

「知りたくない」: 女性40代

「どちらともいえない」: 女性50代、男性60代

全般に、男女ともにすべての年代で『知りたい』人が『知りたくない』人よりも割合が高い傾向にある。

ただし、男女ともに、60代以降は、『知りたくない』傾向が伺える。

(単位: %)

		N (人数)	知りたい	どちらかとい えば知りたい	どちらかとい えば知りたく ない	知りたくない	どちらともいえ ない
Total		3,000	21.8	41.0	11.1	10.2	15.8
男性	Total	1,500	21.5	39.9	10.8	11.7	16.2
	20-29歳	300	17.0	39.3	11.0	12.0	20.7
	30-39歳	300	20.7	38.3	10.3	11.3	19.3
	40-49歳	300	27.7	35.7	13.0	8.3	15.3
	50-59歳	300	19.7	44.3	10.0	11.3	14.7
	60-69歳	300	22.3	41.7	9.7	15.3	11.0
女性	Total	1,500	22.2	42.2	11.4	8.8	15.4
	20-29歳	300	19.7	37.7	13.0	8.3	15.3
	30-39歳	300	26.7	44.3	6.7	9.0	13.3
	40-49歳	300	21.3	49.0	8.0	5.7	16.0
	50-59歳	300	26.7	42.0	11.7	9.0	10.7
	60-69歳	300	16.7	38.0	17.7	12.0	15.7

30代、40代は  
『知りたい』傾向が見  
られる

男女ともに60代にな  
ると『知りたくない』  
傾向が見られる

## 2. 調査結果

Q3. ご自身の遺伝情報を知りたいと思いますか。それぞれ一つ選択してください。

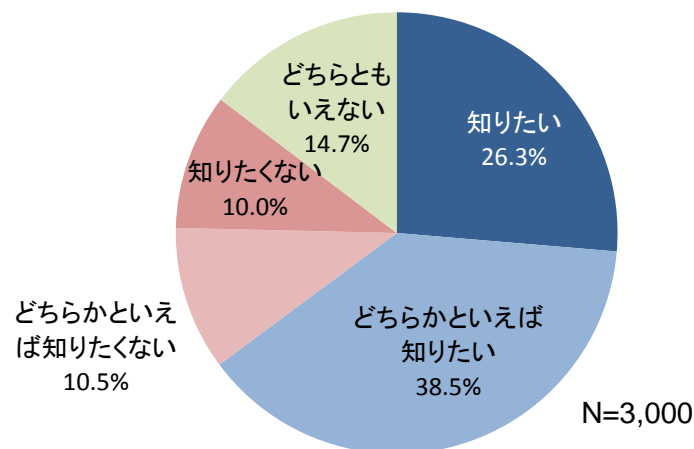
### ②成人になって発症する乳がん、卵巣がん、大腸がん等の一部治療法のある病気へのかかりやすさ

全体で、割合をみると、「どちらかといえば知りたい」が最も多く38.5%、次いで、「知りたい」が26.3%、「どちらでもない」が14.7%であった。

『知りたい』人（「知りたい」および「どちらかといえば知りたい」）の割合は64.8%、『知りたくない』人（「どちらかといえば知りたくない」および「知りたくない」）の割合は20.5%であり、『知りたい』人の割合が『知りたくない』人の割合よりもかなり高いという結果であった。

(単位:人)

	人数	割合
知りたい	790	26.3%
どちらかといえば知りたい	1,155	38.5%
どちらかといえば知りたくない	316	10.5%
知りたくない	299	10.0%
どちらともいえない	440	14.7%
N	3,000	100.0%



## 2. 調査結果

Q3. ご自身の遺伝情報を知りたいと思いますか。それぞれ一つ選択してください。

②成人になって発症する乳がん、卵巣がん、大腸がん等の一部治療法のある病気へのかかりやすさ

◆他に比べて割合が高い(有意に高い)性別および年代

「知りたい」: 女性30代、女性40代、女性50代

「どちらかといえば知りたくない」: 女性60代

「知りたくない」: 男性60代

「どちらともいえない」: 男性20代、男性30代、女性20代

◆他に比べて割合が低い(有意に低い)性別および年代

「知りたい」: 男性20代

「知りたくない」: 女性40代

「どちらともいえない」: 女性50代

全般に、女性の30代から50代の『知りたい』人の割合が高い傾向にある。乳がん、卵巣がんなど女性特有の疾病が多いことも影響していると思われる。その一方で、女性で60代を経過する『『知りたくない』傾向が見られる。

(単位: %)

		N (人数)	知りたい	どちらかとい えば知りたい	どちらかとい えば知りたく ない	知りたくない	どちらともいえ ない
Total		3,000	26.3	38.5	10.5	10.0	14.7
男性	Total	1,500	22.3	38.7	10.5	12.1	16.3
	20-29歳	300	17.0	39.7	10.7	12.0	20.7
	30-39歳	300	22.3	37.0	9.3	11.3	20.0
	40-49歳	300	29.7	36.3	11.7	7.7	14.7
	50-59歳	300	21.3	40.0	11.7	12.3	14.7
	60-69歳	300	21.3	40.7	9.3	17.3	11.3
女性	Total	1,500	30.3	38.3	10.5	7.8	13.1
	20-29歳	300	25.7	35.3	10.7	8.3	20.0
	30-39歳	300	35.7	37.7	8.0	7.3	11.3
	40-49歳	300	33.0	43.3	7.3	4.7	11.7
	50-59歳	300	34.7	38.3	9.0	7.7	11.7
	60-69歳	300	22.7	36.7	17.7	11.0	12.0

女性30~50代は  
『知りたい』傾向が  
見られる

女性60代になると  
『知りたくない』傾向  
が見られる

## 2. 調査結果

Q3. ご自身の遺伝情報を知りたいと思いますか。それぞれ一つ選択してください。

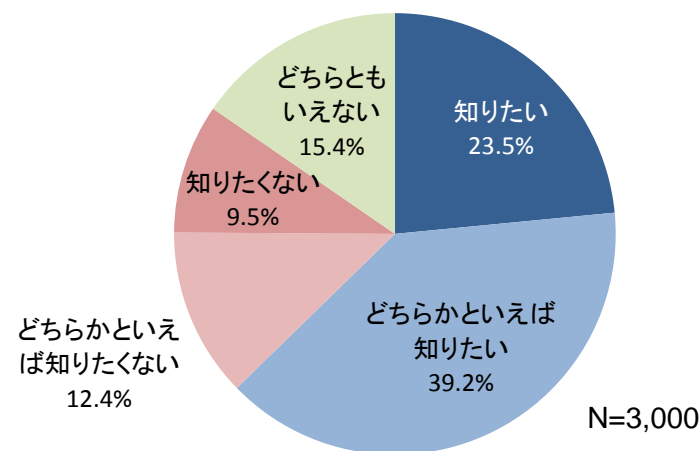
### ③抗がん剤等の薬の効きやすさや副作用の起こりやすさ

全体で、割合をみると、「どちらかといえば知りたい」が最も多く39.2%、次いで、「知りたい」が23.5%、「どちらでもない」が15.4%であった。

『知りたい』人（「知りたい」および「どちらかといえば知りたい」）の割合は62.7%、『知りたくない』人（「どちらかといえば知りたくない」および「知りたくない」）の割合は21.9%であり、『知りたい』人の割合が『知りたくない』人の割合よりもかなり高いという結果であった。

(単位: 人)

	人数	割合
知りたい	704	23.5%
どちらかといえば知りたい	1,177	39.2%
どちらかといえば知りたくない	372	12.4%
知りたくない	285	9.5%
どちらともいえない	462	15.4%
N	3,000	100.0%



## 2. 調査結果

Q3. ご自身の遺伝情報を知りたいと思いますか。それぞれ一つ選択してください。

### ③抗がん剤等の薬の効きやすさや副作用の起こりやすさ

◆他に比べて割合が高い(有意に高い)性別および年代

「知りたい」: 女性50代

「どちらかといえば知りたい」: 女性40代

「知りたくない」: 男性60代

「どちらともいえない」: 女性20代、男性20代

◆他に比べて割合が低い(有意に低い)性別および年代

「知りたい」: 男性20代、女性20代

「知りたくない」: 女性40代

「どちらともいえない」: 女性50代、女性60代、男性60代

全般に、男女ともにすべての年代で『知りたい』人が『知りたくない』人よりも割合が高い傾向にある。

(単位: %)

		N (人数)	知りたい	どちらかとい えば知りたい	どちらかとい えば知りたく ない	知りたくない	どちらともいえ ない
Total		3,000	23.5	39.2	12.4	9.5	15.4
男性	Total	1,500	21.6	38.3	12.9	10.9	16.3
	20-29歳	300	16.7	35.3	14.0	12.3	21.7
	30-39歳	300	21.3	34.7	13.7	10.3	20.0
	40-49歳	300	27.3	37.7	12.0	7.7	15.3
	50-59歳	300	21.7	41.3	14.3	8.7	14.0
	60-69歳	300	21.0	42.7	10.3	15.3	10.7
女性	Total	1,500	25.3	40.1	11.9	8.1	14.5
	20-29歳	300	18.7	36.3	13.7	9.0	22.3
	30-39歳	300	26.3	40.7	11.0	8.0	14.0
	40-49歳	300	25.3	46.0	9.0	6.3	13.3
	50-59歳	300	33.3	36.7	11.3	7.3	11.3
	60-69歳	300	23.0	41.0	14.7	10.0	11.3

## 2. 調査結果

Q3. ご自身の遺伝情報を知りたいと思いますか。それぞれ一つ選択してください。

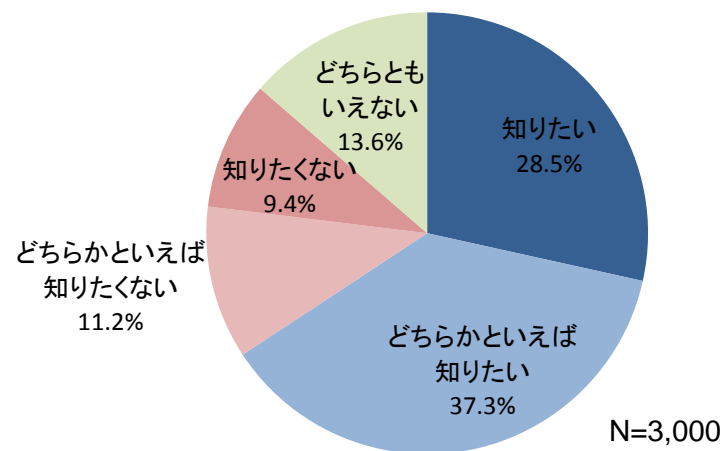
### ④アルツハイマー症等の予防や治療の難しい病気へのかかりやすさ

全体で、割合をみると、「どちらかといえば知りたい」が最も多く37.3%、次いで、「知りたい」が28.5%、「どちらでもない」が13.6%であった。

『知りたくない』人（「知りたい」および「どちらかといえば知りたい」）の割合は65.8%、『知りたくない』人（「どちらかといえば知りたくない」および「知りたくない」）の割合は20.6%であり、『知りたい』人の割合が『知りたくない』人の割合よりもかなり高いという結果であった。

(単位: 人)

	人数	割合
知りたい	854	28.5%
どちらかといえば知りたい	1,118	37.3%
どちらかといえば知りたくない	336	11.2%
知りたくない	283	9.4%
どちらともいえない	409	13.6%
N	3,000	100.0%



## 2. 調査結果

Q3. ご自身の遺伝情報を知りたいと思いますか。それぞれ一つ選択してください。

### ④アルツハイマー症等の予防や治療の難しい病気へのかかりやすさ

◆他に比べて割合が高い(有意に高い)性別および年代

「知りたい」: 女性50代

「どちらかといえば知りたくない」: 女性60代

「知りたくない」: 男性60代、男性20代

「どちらともいえない」: 女性20代、男性30代、男性20代、

◆他に比べて割合が低い(有意に低い)性別および年代

「知りたい」: 男性20代、女性20代

「知りたくない」: 女性40代

「どちらともいえない」: 男性60代、女性50代

全般に、男女ともにすべての年代で『知りたい』人が『知りたくない』人よりも割合が高いが、特に女性の50代に『知りたい』人の割合が高い傾向にある。

(単位: %)

		N (人数)	知りたい	どちらかとい えば知りたい	どちらかとい えば知りたく ない	知りたくない	どちらともい えない
Total		3,000	28.5	37.3	11.2	9.4	13.6
男性	Total	1,500	25.4	37.1	11.5	11.3	14.8
	20-29歳	300	19.0	36.0	13.0	12.7	19.3
	30-39歳	300	23.7	36.7	9.3	10.7	19.7
	40-49歳	300	31.0	35.3	12.3	7.3	14.0
	50-59歳	300	24.3	40.3	12.3	10.3	12.7
	60-69歳	300	29.0	37.0	10.3	15.3	8.3
女性	Total	1,500	31.5	37.5	10.9	7.6	12.5
	20-29歳	300	22.7	36.0	13.3	8.0	11.0
	30-39歳	300	31.0	41.0	8.3	8.7	11.0
	40-49歳	300	31.0	42.0	8.3	5.7	13.0
	50-59歳	300	41.0	34.0	9.3	7.0	8.7
	60-69歳	300	32.0	34.3	15.3	8.7	9.7

女50代は  
『知りたい』傾向が  
見られる

男60代は  
『知りたくない』傾向  
が見られる



## 2. 調査結果

Q3. ご自身の遺伝情報を知りたいと思いますか。それぞれ一つ選択してください。

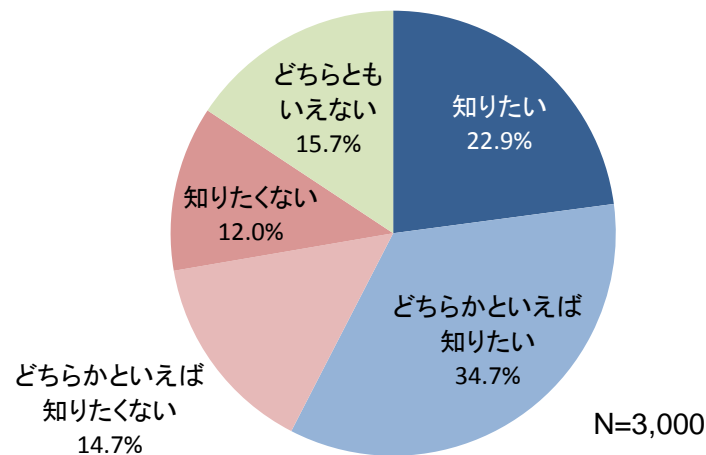
### ⑤現時点では治療法のない難病等の病気へのかかりやすさ

全体で、割合をみると、「どちらかといえば知りたい」が最も多く34.7%、次いで、「知りたい」が22.9%、「どちらでもない」が15.7%であった。

『知りたい』人（「知りたい」および「どちらかといえば知りたい」）の割合は67.6%、『知りたくない』人（「どちらかといえば知りたくない」および「知りたくない」）の割合は26.7%であり、『知りたい』人の割合が『知りたくない』人の割合よりもかなり高いという結果であった。

(単位: 人)

	人数	割合
知りたい	687	22.9%
どちらかといえば知りたい	1,040	34.7%
どちらかといえば知りたくない	442	14.7%
知りたくない	360	12.0%
どちらともいえない	471	15.7%
N	3,000	100.0%



## 2. 調査結果

Q3. ご自身の遺伝情報を知りたいと思いますか。それぞれ一つ選択してください。

### ⑤現時点では治療法のない難病等の病気へのかかりやすさ

#### ◆他に比べて割合が高い(有意に高い)性別および年代

「知りたい」: 男性40代

「どちらかといえば知りたい」: 女性40代

「どちらかといえば知りたくない」: 女性60代

「知りたくない」: 男性60代、男性20代

「どちらともいえない」: 男性20代、男性30代、女性20代

#### ◆他に比べて割合が低い(有意に低い)性別および年代

「どちらかといえば知りたい」: 女性60代

「知りたくない」: 女性40代、男性40代

「どちらともいえない」: 女性50代、女性30代、男性60代

全般に、男女ともにすべての年代で『知りたい人』が『知りたくない人』よりも割合が高い傾向にある。

(単位: %)

		N (人数)	知りたい	どちらかとい えば知りたい	どちらかとい えば知りたく ない	知りたくない	どちらともい えない
Total		3,000	22.9	34.7	14.7	12.0	15.7
男性	Total	1,500	22.1	33.5	14.3	13.2	16.9
	20-29歳	300	19.7	31.0	12.3	15.7	21.3
	30-39歳	300	21.0	34.3	12.7	10.3	21.7
	40-49歳	300	28.3	33.0	15.3	8.0	15.3
	50-59歳	300	19.3	35.0	17.3	13.0	15.3
	60-69歳	300	22.3	34.0	14.0	19.0	10.7
女性	Total	1,500	23.7	35.9	15.1	10.8	14.5
	20-29歳	300	19.7	34.0	14.7	10.3	21.3
	30-39歳	300	27.0	39.7	11.7	10.0	11.7
	40-49歳	300	23.0	41.0	14.0	7.0	15.0
	50-59歳	300	27.3	38.0	12.3	11.3	11.0
	60-69歳	300	21.3	26.7	23.0	15.3	13.7

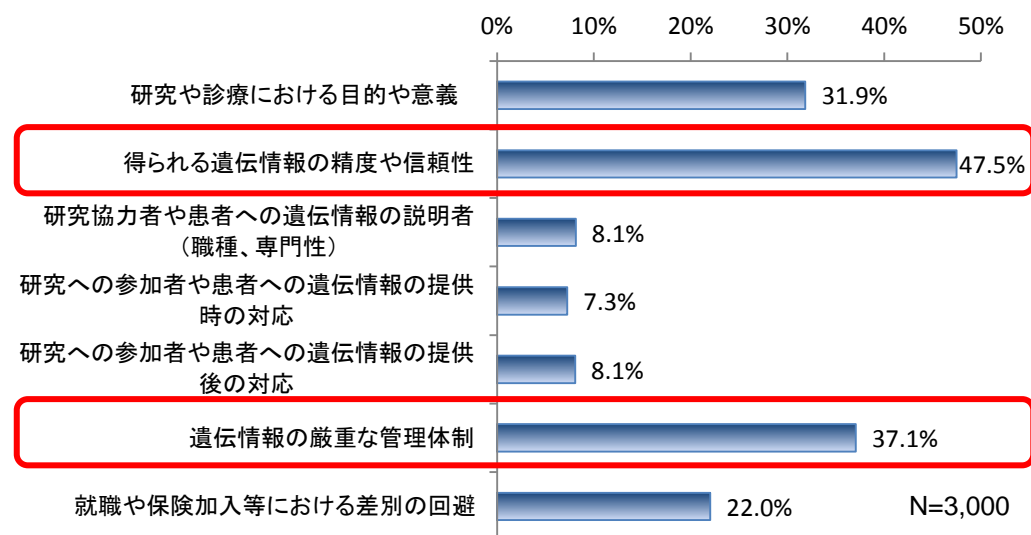
## 2. 調査結果

Q4. 研究や診療を通じてご自身の遺伝情報が取扱われる場合、どのようなことが重要ですか。特に重要なものを2つ選んでください。

全体で、重要と思われる事項の割合をみると、「**得られる遺伝情報の精度や信頼性**」が最も多く**47.5%**、次いで、「**遺伝情報の厳重な管理体制**」が**37.1%**、「**研究や診療における目的や意義**」が**31.9%**であった。

(単位:人)

	人数	割合
研究や診療における目的や意義	956	31.9%
得られる遺伝情報の精度や信頼性	1,425	47.5%
研究協力者や患者への遺伝情報の説明者(職種、専門性)	244	8.1%
研究への参加者や患者への遺伝情報の提供時の対応	218	7.3%
研究への参加者や患者への遺伝情報の提供後の対応	242	8.1%
遺伝情報の厳重な管理体制	1,112	37.1%
就職や保険加入等における差別の回避	661	22.0%
N	3,000	-



## 2. 調査結果

Q4. 研究や診療を通じてご自身の遺伝情報が取扱われる場合、どのようなことが重要ですか。特に重要なものを2つ選んでください。

◆他に比べて割合が高い(有意に高い)性別および年代

- 「研究や診療における目的や意義」: 男性20代
- 「得られる遺伝情報の精度や信頼性」: 女性50代
- 「遺伝情報の厳重な管理体制」: 女性60代、男性60代、女性50代
- 「就職や保険加入等における差別の回避」: 男性20代、女性20代

◆他に比べて割合が低い(有意に低い)性別および年代

- 「研究や診療における目的や意義」: 女性50代
- 「得られる遺伝情報の精度や信頼性」: 女性20代
- 「遺伝情報の厳重な管理体制」: 男性20代、男性30代、女性20代
- 「就職や保険加入等における差別の回避」: 女性60代、男性60代

全般に、男女ともにすべての年代で「得られる遺伝情報の精度や信頼性」と「遺伝情報の厳重な管理体制」が重要と考える傾向が高く、特に50代から60代の割合が高い傾向にある。

(単位: %)

		N (人数)	研究や診療における目的や意義	得られる遺伝情報の精度や信頼性	研究協力者や患者への遺伝情報の説明者(職種、専門性)	研究への参加者や患者への遺伝情報の提供時の対応	研究への参加者や患者への遺伝情報の提供後の対応	遺伝情報の厳重な管理体制	就職や保険加入等における差別の回避
Total		3,000	31.9	47.5	8.1	7.3	8.1	37.1	22.0
男性	Total	1,500	33.9	45.4	7.7	6.3	7.0	35.1	23.5
	20-29歳	300	37.0	43.3	6.0	4.7	5.7	24.3	31.0
	30-39歳	300	35.7	43.0	7.0	7.7	6.7	29.3	25.3
	40-49歳	300	32.0	42.7	7.3	7.3	6.7	37.3	23.3
	50-59歳	300	29.7	47.3	8.7	6.0	8.3	38.0	22.7
	60-69歳	300	35.0	50.7	9.3	5.7	7.7	46.3	15.3
女性	Total	1,500	29.9	49.6	8.6	8.3	9.1	39.1	20.5
	20-29歳	300	34.3	41.7	9.0	9.0	9.0	26.0	28.7
	30-39歳	300	32.0	50.7	9.3	5.7	8.0	33.7	21.7
	40-49歳	300	31.0	47.7	9.0	7.0	9.0	34.0	21.7
	50-59歳	300	23.0	55.3	7.0	10.0	9.7	46.0	17.3
	60-69歳	300	29.0	52.7	8.7	9.7	10.0	55.7	13.3

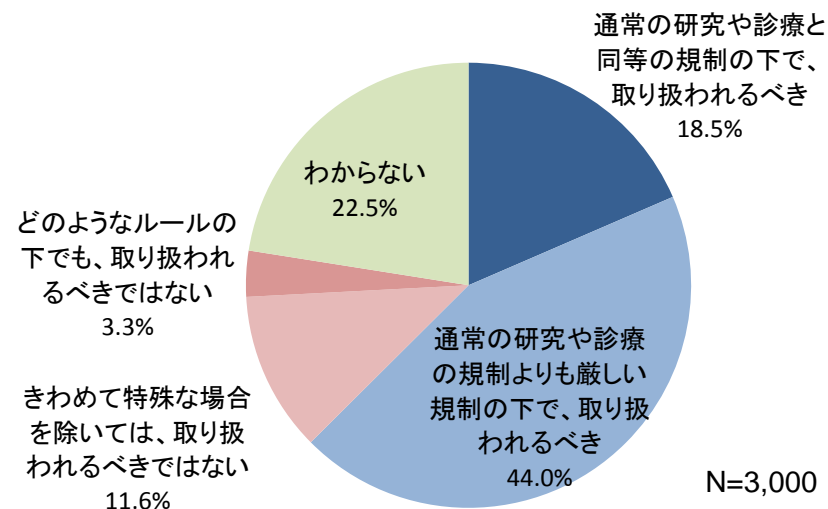
## 2. 調査結果

Q5. 遺伝情報に関する研究や診療を進めていくことで、個人に適した治療や診断を行う「オーダーメイド医療」の実現が期待されます。今後、遺伝情報が研究や診療で用いられる場合、遺伝情報はどのようなルールの下で、取扱われることが望ましいですか。

全体で、割合をみると、「**通常の研究や診療の規制よりも厳しい規制の下で、取扱われるべき**」が最も多く**44.0%**、次いで、「わからない」が**22.5%**、「通常の研究や診療と同等の規制の下で、取扱われるべき」が**18.5%**であった。

(単位:人)

	人数	割合
通常の研究や診療と同等の規制の下で、取扱われるべき	555	18.5%
通常の研究や診療の規制よりも厳しい規制の下で、取扱われるべき	1,321	44.0%
きわめて特殊な場合を除いては、取扱われるべきではない	349	11.6%
どのようなルールの下でも、取扱われるべきではない	100	3.3%
わからない	675	22.5%
N	3,000	100.0%



## 2. 調査結果

Q5. 遺伝情報に関する研究や診療を進めていくことで、個人に適した治療や診断を行う「オーダメイド医療」の実現が期待されます。今後、遺伝情報が研究や診療で用いられる場合、遺伝情報はどのようなルールの下で、取扱われることが望ましいですか。

◆他に比べて割合が高い(有意に高い)性別および年代

「通常の研究や診療の規制よりも厳しい規制の下で、取扱われるべき」:

男性60代、女性60代

「きわめて特殊な場合を除いては、取扱われるべきではない」:

男性60代

「どのようなルールの下でも、取扱われるべきではない」:

男性20代、女性20代

「わからない」: 男性20代、女性20代

◆他に比べて割合が低い(有意に低い)性別および年代

「通常の研究や診療と同等の規制の下で、取扱われるべき」:

女性60代

「通常の研究や診療の規制よりも厳しい規制の下で、取扱われるべき」:

男性20代、女性20代

「きわめて特殊な場合を除いては、取扱われるべきではない」:

女性40代

「わからない」: 女性60代、男性60代、女性50代

全般に、男女ともにすべての年代で「通常の研究や診療の規制よりも厳しい規制の下で、取扱われるべき」が高い傾向にあるが、男女ともに20代の割合が低い傾向が見られる。

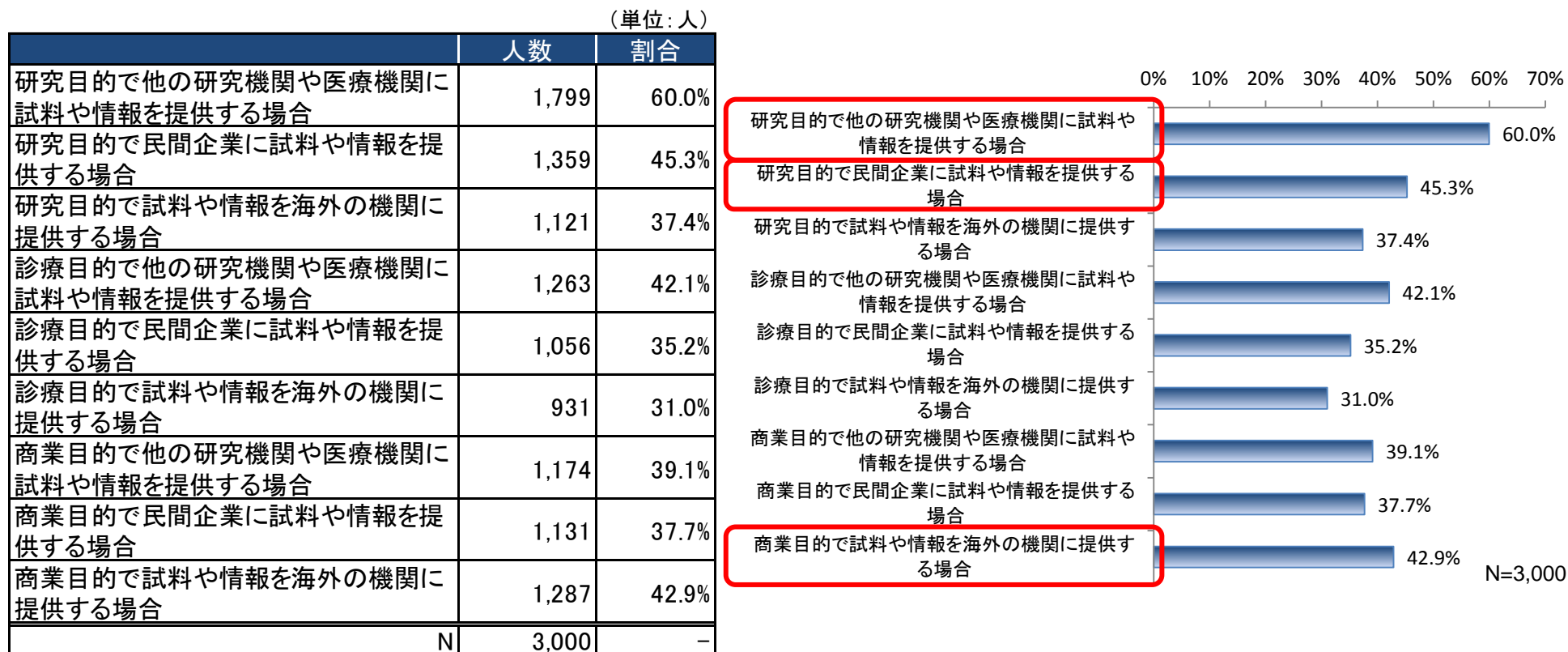
(単位: %)

		N (人数)	通常の研究や 診療と同等の規 制の下で、取り 扱われるべき	通常の研究や 診療の規制より も厳しい規制の 下で、取り扱わ れるべき	きわめて特殊な 場合を除いて は、取り扱われ るべきではない	どのようなルー ルの下でも、取 り扱われるべき ではない	わからない
Total		3,000	18.5	44.0	11.6	3.3	22.5
男性	Total	1,500	19.1	44.0	10.5	4.1	22.3
	20-29歳	300	18.0	35.3	9.3	5.3	32.0
	30-39歳	300	19.3	41.0	10.3	3.7	25.7
	40-49歳	300	19.0	43.0	8.7	4.3	25.0
	50-59歳	300	20.0	48.0	11.0	4.3	16.7
	60-69歳	300	19.0	52.7	13.3	2.7	12.3
女性	Total	1,500	17.9	44.1	12.7	2.6	22.7
	20-29歳	300	21.7	34.7	8.3	2.0	33.3
	30-39歳	300	21.0	41.3	10.0	2.7	25.0
	40-49歳	300	18.0	45.0	8.0	2.3	26.7
	50-59歳	300	18.3	48.0	14.7	2.7	16.3
	60-69歳	300	10.7	51.3	22.7	3.3	12.0

## 2. 調査結果

Q6. 遺伝情報に関する研究や診療を行う際には、研究への参加者や患者から同意を取得する必要がありますが、試料や情報(氏名や住所等の個人情報を除く)の取扱いにおいて、特にどのような場合を明確に説明しておく必要があると思いますか。

全体で、割合をみると、「研究目的で他の研究機関や医療機関に試料や情報を提供する場合」が最も多く60.0%、次いで、「研究目的で民間企業に試料や情報を提供する場合」が45.3%、「商業目的で資料や情報を海外の機関に提供する場合」が42.9%、「診療目的で他の研究機関や医療機関に試料や情報を提供する場合」が42.1%であった。





## 2. 調査結果

**Q6. 遺伝情報に関する研究や診療を行う際には、研究への参加者や患者から同意を取得する必要がありますが、試料や情報(氏名や住所等の個人情報を除く)の取扱いにおいて、特にどのような場合を明確に説明しておく必要があると思いますか。**

◆他に比べて割合が高い(有意に高い)性別および年代

「研究目的で他の研究機関や医療機関に試料や情報を提供する場合」: 女性50代

「研究目的で民間企業に試料や情報を提供する場合」: 男性50代

「研究目的で試料や情報を海外の機関に提供する場合」: 男性60代

「診療目的で他の研究機関や医療機関に試料や情報を提供する場合」: 女性50代、女性60代

「診療目的で民間企業に試料や情報を提供する場合」: 男性60代、女性50代

「診療目的で試料や情報を海外の機関に提供する場合」: 女性50代

「商業目的で他の研究機関や医療機関に試料や情報を提供する場合」: 女性50代

「商業目的で民間企業に試料や情報を提供する場合」: 女性50代

◆他に比べて割合が低い(有意に低い)性別および年代

「研究目的で他の研究機関や医療機関に試料や情報を提供する場合」: 男性20代

「研究目的で民間企業に試料や情報を提供する場合」: 女性20代

「研究目的で試料や情報を海外の機関に提供する場合」: 女性20代

「診療目的で他の研究機関や医療機関に試料や情報を提供する場合」: 女性20代

「診療目的で民間企業に試料や情報を提供する場合」: 男性20代

「商業目的で他の研究機関や医療機関に試料や情報を提供する場合」: 男性20代

「商業目的で民間企業に試料や情報を提供する場合」: 男性20代

全般に、いずれの回答も、50代の女性に高い傾向が見られる。



## 2. 調査結果

Q6. 遺伝情報に関する研究や診療を行う際には、研究への参加者や患者から同意を取得する必要がありますが、試料や情報(氏名や住所等の個人情報を除く)の取扱いにおいて、特にどのような場合を明確に説明しておく必要があると思いますか。

(単位: %)

		N (人数)	研究目的で他の 研究機関や医 療機関に試料や 情報を提供する 場合	研究目的で民間 企業に試料や情 報を提供する場 合	研究目的で試料 や情報を海外の 機関に提供する 場合	診療目的で他の 研究機関や医 療機関に試料や 情報を提供する 場合	診療目的で民間 企業に試料や情 報を提供する場 合	診療目的で試料 や情報を海外の 機関に提供する 場合	商業目的で他の 研究機関や医 療機関に試料や 情報を提供する 場合	商業目的で民間 企業に試料や情 報を提供する場 合	商業目的で試料 や情報を海外の 機関に提供する 場合
Total		3,000	60.0	45.3	37.4	42.1	35.2	31.0	39.1	37.7	42.9
男性	Total	1,500	56.9	44.7	36.9	39.8	34.3	29.6	36.7	36.2	42.9
	20-29歳	300	51.7	45.0	37.3	36.7	29.7	28.3	31.7	32.3	45.7
	30-39歳	300	56.3	43.3	34.0	35.7	31.7	27.0	35.3	35.0	43.0
	40-49歳	300	54.3	44.3	34.7	39.7	33.7	27.7	34.3	36.0	40.3
	50-59歳	300	57.7	42.0	34.7	41.0	34.0	28.3	37.0	33.7	40.7
	60-69歳	300	64.7	48.7	43.7	46.0	42.3	36.7	45.3	44.0	44.7
女性	Total	1,500	63.0	45.9	37.9	44.4	36.1	32.5	41.5	39.2	42.9
	20-29歳	300	53.7	36.0	30.3	31.3	26.7	34.0	34.7	46.3	
	30-39歳	300	61.0	46.7	36.7	39.7	34.3	31.7	37.7	36.7	41.7
	40-49歳	300	66.7	47.0	40.3	45.7	34.0	31.7	42.0	38.3	39.7
	50-59歳	300	67.3	52.0	40.7	53.0	43.3	39.0	50.3	46.3	46.7
	60-69歳	300	66.3	48.0	41.3	52.3	37.7	33.3	43.7	40.0	40.3

### 3. 調査結果のまとめ

- 「遺伝子」「DNA」等の言葉は8割の市民が知っているが、「パーソナルゲノム」(8.7%)と「ファーマコゲノミクス」(2.0%)は、9割以上の人知らない結果となった。特に、20代、30代の若い世代にその傾向が見られた。
- 遺伝情報(遺伝的な体質)に関する研究や診療に関心については、関心がある傾向がある市民は半数弱であった。男女ともに20代、30代は『関心がない』人の割合が高い傾向にあった。
- 「アルツハイマー症等の予防や治療の難しい病気へのかかりやすさ」「成人になって発症する乳がん、卵巣がん、大腸がん等の一部治療法のある病気へのかかりやすさ」は知りたい傾向が高かった。
- 研究や診療を通じて自身の遺伝情報が取扱われる場合、「得られる遺伝情報の精度や信頼性」を重視する傾向が高かった。
- 遺伝情報が研究や診療で用いられる場合、「通常の研究や診療の規制よりも厳しい規制の下で、取扱われるべき」を望ましいとする傾向が高かった。
- 遺伝情報に関する研究や診療を行う際、研究への参加者や患者から同意を取得する場合、「研究目的で他の研究機関や医療機関に試料や情報を提供する場合」に明確な説明を必要とする傾向が高かった。

---

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社 三菱総合研究所

人間・生活研究本部 ヘルスケアマネジメントグループ

---